

平成 25 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 25 年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成 25 年 4 月 24 日（水）

3 調査対象

第 6 学年

4 本校の参加状況

- | | | | |
|--------|-------|------|-------|
| ① 国語 A | 132 人 | 国語 B | 132 人 |
| ② 算数 A | 132 人 | 算数 B | 132 人 |

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の 2 教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

II 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・漢字や文章を書くことに関する基礎的・基本的な知識・技能の定着が不十分である。特に、資料を読んで分かったことを的確に書いたり、重要な語句を選び出して書いたりすることが課題である。
- ・聞くことに関する技能も低く、相手の意図をとらえながら聞き、活用することは大きな課題である。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【話すこと・聞くこと】

- 共感的な態度で相手の話を聞き、その立場や状況を感じ取って聞くことは身に付いている。
- 相手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べたり自分の考えをまとめたりして相手に自分の考えを表現することが、市と比べかなり低い。

【書くこと】

- 文と文の意味つながりを考えることや読んで分かったことを的確に書く力が、県や全国と比べかなり低い。特に、自分の力でまとめて書くことに関しては、無答が25%と目立つ。

【読むこと】

- 広告の特徴や俳句の情景をとらえる力はある。
- 複数の本や文章などを比べて読み、内容を正確にとらえることに課題がある。無答も、30%以上と目立つ。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 漢字の読み書きやことわざの意味理解については、定着状況に差がある。

国語に関する児童質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 国語の学習は大切で、好きだと思っている児童が多い。
- 読書を好きと回答している児童が、市と比べ低い。
- 全体的に、文章の内容を理解しようと気を付けながら読んだり、分かりやすい文章を書くために工夫しようとしたりする意識が薄い。また、記述式の問題に対して回答意欲の低下がみられる。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- ・相手の意図をとらえながら聞くことはできるので、自分の考えと比べて共通点や相違点を明らかにしたり、関連して考えたことなどを整理して自分の考えをまとめたりする学習活動を充実させたい。

【書くこと】

- ・自分なりに考えたことを書くことができるようにするためには、資料などの情報を正確に読み取る力をつける必要がある。その上で、的確に表現するために情報の比較や統合などをしながら、表現するための言葉を具体的に指導したい。

【読むこと】

- ・登場人物や作品の構造などを意識しながら読むことや、本や文章の選択の仕方や読み方を工夫して読むことを指導したい。また、読書の幅を広げることができるように、同じ作者や同じテーマ、数編の文章が所収された本などの本を紹介し、読書活動を推進したい。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・漢字の読み書きは、繰り返し練習の充実と既習の文字の日常的な指導を通して定着を図る。

2 算数

全体的な傾向

- 基本的な四則演算に関する問題には高い理解を示している。しかし分数計算、割合についての問題の正答率は低い。
- 文章問題や考え・理由を選択する問題、基礎基本を活用した応用問題を解くことに課題がある。

分類・区別の傾向と課題

●…課題があるもの

【数と計算】

- 整数、小数どうしの加法・減法・乗法については市を上回っている。
- 仮分数の加法・乗法、帯分数の加法など、分数計算についての正答率が低い。

【量と測定】

- 基本的な知識を問う設問の正答率は、市と有意差は見られない。
- 理由や考えを選択する問題の正答率で、市を大きく下回る。

【図形】

- 図形についての知識を問う問題の正答率は、市とほぼ同じである。
- 他領域との複合問題、理由を選択する問題についての正答率が低い。

【数量関係】

- 割合について、基準量と比較量の大きさの関係を問う問題の正答率が低い。
- 文章題の正答率が全国のものに比べ低い。

算数に関する児童質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 算数の勉強をすることが「楽しい」「大切だと思う」と答える児童が、市と比べ高い割合を示し、さらに、「新しい問題を解いてみたい」「諦めずに色々な方法を試す」と回答する割合も高く、算数の勉強に関心を持っていることが分かる。
- 算数で習ったことを、普段の生活に結び付けて考えている児童の割合は、市に比べいずれも低い。

指導改善のポイント

【数と計算】

- 適宜復習の機会を設けて繰り返し指導することが必要である。特に、分数の四則演算についての計算練習が重要であると考え。

【量と測定】

- 台形の面積を求める公式を適切に用いることに課題があるので、具体物を使って、たとえば二つの平行四辺形を使って、「(上底+下底)」や「 $\div 2$ 」の意味などを視覚的に指導することが考えられる。

【図形】

- 図形についての問題について、解決方法や考え方を発表し合い、様々な考え方や表現の仕方に気付かせる。その際、根拠となることがらを挙げて説明できるようにする。

【数量関係】

- 比較的數量の關係の把握が容易な割合が50%という場合から段階的に、基準量・比較量・割合の關係をとらえられるようにする。ある場合に成り立つことが一般の場合にも成り立つことをとらえさせることが大切である。

3 児童質問紙調査

●…課題があるもの

《傾向》

- 朝食を毎日食べている児童が多いので、今後も継続して食育の指導に当たりたい。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きることができない児童が見られるため、早寝早起きの習慣が身に付くよう家庭にも呼びかけて、指導していきたい。
- 家庭において、自分で計画を立てて勉強している児童が少ない傾向にあるため、「家庭学習のてびき」を基に、学級活動や懇談会等機会をとらえ、継続的に指導していきたい。
- 学校のきまりが守れない児童がやや多い傾向にあるため、きまりがなぜ必要なのかをよく考えさせ、きまりを守ることの大切さを指導していきたい。
- 算数の勉強の大切さを理解している児童が多く見られる。算数は中学校に進学しても、能力差の生じやすい教科であるため、今後も興味・関心を高めながら、算数が好きになるような指導を心がけていきたい。